

子供が生活と知識をつなげ、よりよく生きようとする社会科学習の在り方

垂水市立垂水小学校 教諭 盛岡 佑子

目 次

1	研究主題	1
2	研究主題設定の理由	1
3	研究の仮説	1
4	研究計画と方法	1
5	研究の実際	2
	(1) 研究に関する基本的な考え方	
	(2) 検証	
6	成果と課題	8
	(1) 成果	
	(2) 課題	

[引用文献・参考文献]

- | | | |
|--|--------------------------------------|-------|
| ・ 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編 | 文部科学省 | 平成29年 |
| ・ 鹿児島県総合教育センター令和2年度長期研修研究報告書「問題解決的な学習における『思考力，判断力，表現力等』を育む社会科学習指導の在り方—児童自ら知識をつなぐ振り返りの場面に基づいた授業設計を通して—」 | 鹿児島県総合教育センター | 令和3年 |
| ・ 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）」 | 中央教育審議会 | 令和3年 |
| ・ 『令和3年度第61回鹿児島県小学校社会科教育研究大会「肝属大会」研究紀要』 | 鹿児島県小学校教育研究会社会科部会
肝属地区小学校社会科教育研究会 | 令和3年 |

1 研究主題

子供が生活と知識をつなげ、よりよく生きようとする社会科学習の在り方

2 研究主題設定の理由

社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0」時代が到来し、新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明で予測が困難な現在、急激に変化する時代の中でこそ現代社会に生きる公民として、主体的に考え、判断し、行動することが望まれる。

このような現状の中、学校は、新学習指導要領の着実な実施とICTの活用を通して、子供一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながらさまざまな社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることができるよう求められている。

これらを受けて小学校社会科では、子供自らが主体的に取り組む問題解決的な学習を通して、「社会的事象の見方・考え方」を働かせ、社会的事象から問いを見いだしたり、社会的事象の意味や意義について考察したことを基に判断したり、判断したことを表現したりすることが大切であるとする。

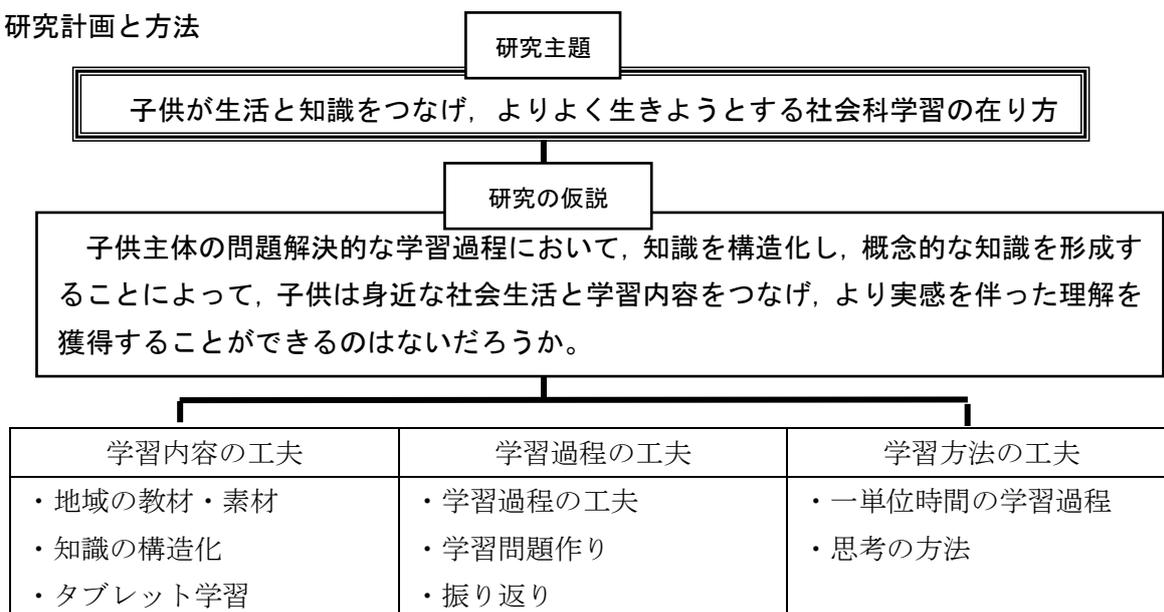
そこで本研究では、子供が自らの問いの解決に向けて、追究の見通しをもち、社会的事象の見方・考え方を働かせながら、社会生活についての理解を深めることができるような学習を設計していくことが大切であると考えた。

また、GIGAスクール構想実現に向け、教育ICT環境の実現が図られつつある今、一斉学習や個別学習におけるこれまでの教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、多様な子供たち一人一人に公正に個別最適化された学びを保障していく必要がある。社会科においても学習内容やねらいに応じて積極的なICTの活用を進めていくことが大切である。

3 研究の仮説

子供主体の問題解決的な学習過程において、知識を構造化し、概念的な知識を形成することによって、子供は身近な社会生活と学習内容をつなげ、より実感を伴った理解を獲得することができるのではないだろうか。

4 研究計画と方法



5 研究の実際

(1) 研究に関する基本的な考え方

ア 問題解決的な学習について

小学校学習指導要領解説社会編では、次のように定義している。「問題解決的な学習とは、単元などにおける学習問題を設定し、その問題の解決に向けて諸資料や調査活動などで調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして表現し、社会生活について理解したり、社会への関心を高めたりする学習。」

鹿児島県小学校社会科研究会では、これらの考え方を踏まえて、子供自ら問題意識をもち、自ら解決していく問題解決的な学習を重視する立場から、図1のような「1小単元1サイクル」の学習過程を大切にしている。

「つかむ」では、直面した社会的事象から問題意識をもち、追究すべき単元における学習問題を設定する。「見通す」では、学習問題の予想を基に、追究する内容と方法を決め、学習計画を立てる。「調べる・考える」では、追究する内容について調べたり、調べたことを整理したり、まとめたりしたことを通して社会的事象の特色や意味や意義などについて考える。「まとめる・生かす」では、追究した内容を基に学習問題のまとめを吟味したり、考えたことをまとめ、新たな問いを見だし、まとめたりする。このような学習過程を通して子供は社会的事象について主体的に問いを見だし、自ら問題解決を図ろうとすることができる。と考える。

イ 知識の構造化について

社会科において、知識を構造化するとは、既得の知識や事実に関わる新たな知識をつなげることで、他の学習や生活の場面で活用できる確かに生きて働く知識に高めていくことである。まず、身近な社会的事象の事実を知り、事実同士の関連や因果関係等を含めた様子や意味が分かることで、学んだことを生かして判断したり、判断したことを表現したりできる。

つまり、知識をつなぐことで、既に有している概念をより強固なものにしたり、汎用性の高い概念的な理解に高めたりすることができるのである。



図1 問題解決的な「1小単元1サイクルの学習過程」(R3鹿児島県小学校社会科教育研究大会肝属大会資料を参考に作成)

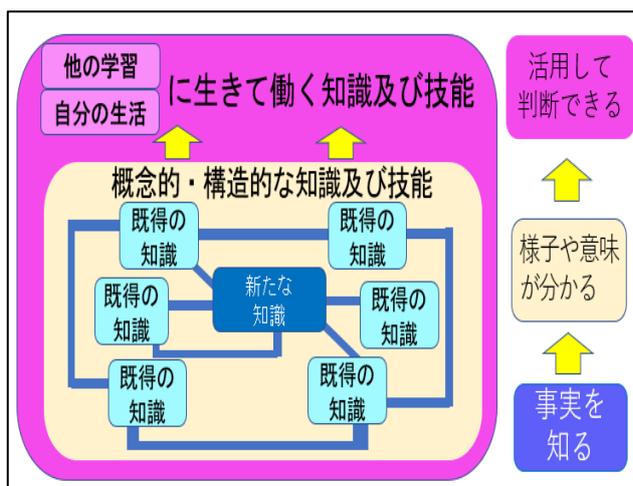


図2 知識の理解の質を高めるイメージと社会認識の段階 (鹿児島県総合教育センター指導資料社会第132号を参考に作成)

イ 知識の構造化

調べた事実や知識を整理し、学習内容を構造化させることは、単元における中心概念に迫るための有効な手立ての一つであると考えられる。図6は、思考ツールであるフィッシュボーン図を使って、焼売工場について調べて分かったことをまとめる活動を行ったときの様子である。図7は、消防の工夫について調べて分かったことをまとめる活動を行ったときの様子である。

思考ツールの活用については、表1のように様々な種類のものがあるので、児童の発達の段階や実態、単元のねらい等を考慮し、吟味する必要がある。

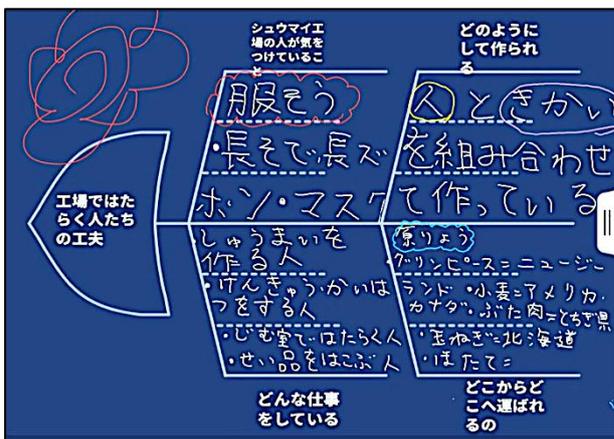


図6 フィッシュボーン図によるまとめ

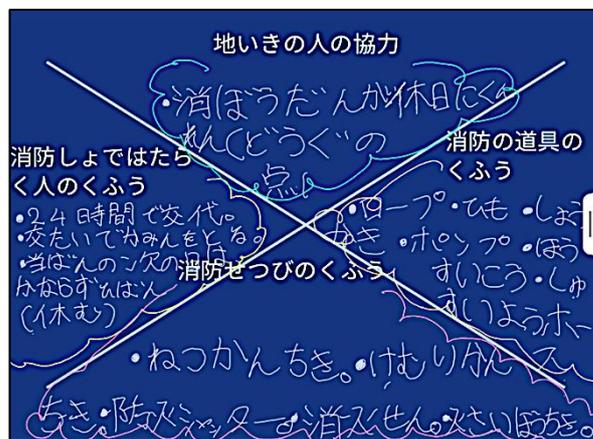


図7 Xチャート図によるまとめ

ウ タブレット学習

思考方法	思考ツール
くらべる	ベン図, マトリクス, 座標軸
わけ	ベン図, くま手チャート, マトリクス, データチャート, 座標軸
つなぐ	イメージマップ, ステップチャート, コンセプトマップ, 同心円チャート
つなぐ (理由付ける)	データチャート, クラゲチャート, バタフライチャート, 情報分析チャート
つなぐ (構造化する)	ステップチャート, コンセプトマップ, ピラミッドチャート, フィッシュボーン

表1 思考方法と思考ツールの対応 (R2年度鹿児島県総合教育センター長期研修研究報告書「問題解決的な学習における『思考力, 判断力, 表現力等』を育む社会科学習指導の在り方」より引用)

タブレット端末は、社会科だけに限らず全ての学習活動を通して活用を進めているところである。図8は、AIドリルを使ってまとめテスト前の復習に取り組んでいる様子である。

このような活動のほかに、調べ学習でタブレット端末で動画を見たり、ロイロノートを使って単元のまとめに取り組んだり、試行錯誤しながら活用を図っているところである。



図8 タブレットを使った演習の様子

エ 1小単元1サイクルの問題解決的な学習過程の工夫

第3学年「はたらく人とわたしたちの暮らし」では、子供が主体的に問題意識をもち、課題を追究することができるように、小単元の導入部分で家庭学習としての課題として取り組んだ買い物調べの結果を学級全体で共有した。子供たちは、身の回りにはたくさんの種類の販売店があることに気付き、人気の高い店にはどのような秘密があるのかという問いをもつことができた。

次時には、買い物調べの際にもつことができた問いを基に、人気店の理由について予想する活動を行った。(図10) 子供たちは、予想を分類することで、追究の視点を絞ることができたと同時に単元を貫く学習問題を立てることができた。

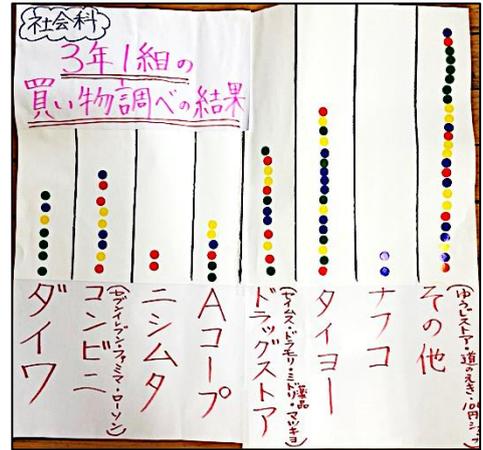


図9 買い物調べの結果



図10 学習問題を立てる際に行なった板書の様子

学習問題を立てる際に立てた追究の柱に沿って調べるために校区内にあるスーパーマーケットに見学に行ったときの様子である。子供たちは、自分たちの予想を確かめるために、店の人に質問をしたり、新たに見つけた事実についてなぜそうなっているのか理由を聞いたりすることができた。

見学を通して分かったことを、全体で共有した後、働く人々の思いについて迫るために、仕事内容別に分けて、店の工夫を分類した。子供たちは、店の工夫には、売り上げを上げるためだけの理由ではなく、消費者である私たちの利便性を考えたり誇りをもって仕事をしたりするためだということを理解することができた。



図11 見学の様子



図 12 店で働く人々の思いについて迫る学習の際の板書の様子

オ 学習問題作り

社会科における学習問題とは、単元全体を貫く「問い」のことである。子供の追究意欲を喚起させるような社会的事象に出合わせることで、学習問題に迫ることができるようなものを設定することが望ましい。しかし、学習問題だけでは追究していく範囲が広いために、追究の柱を立て、一単位時間ごとにめあてを立てる必要がある。図 13 は、警察の仕事について調べる際の学習問題を設定する際の板書の様子である。横浜市の事故や事件の発生件数の資料と鹿児島県の事故や事件の発生件数の資料を提示し、比較させた。子供たちは、二つの資料に共通する点として、事故や事件発生件数の減少に気付き、「なぜ減少しているのか」という疑問をもった。また、前小単元の消防の仕事について調べた際の追究方法を想起することで、疑問や予想を出し合い、それらを分類し、学習問題を設定した。

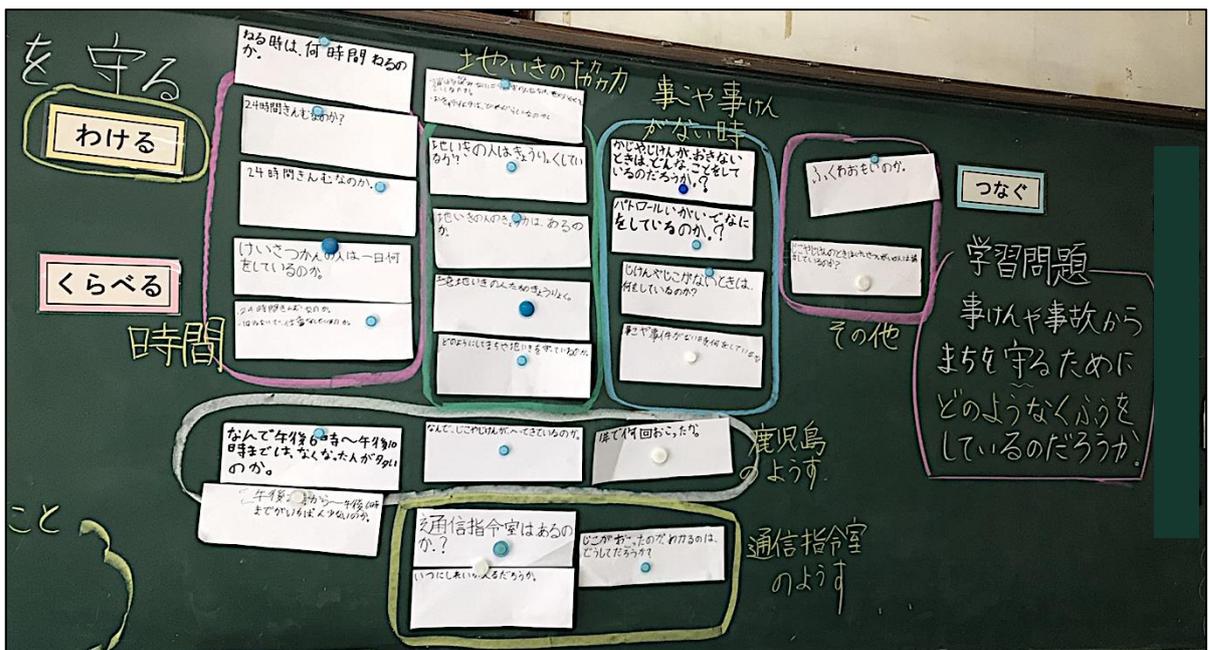


図 13 警察の仕事について調べる学習問題作りの際の板書の様子

カ 振り返り

振り返りを行うことは、学習した内容を確認することで、自己の学びをより確かなものにしたたり、めあてや見通しに対して自分の学びはどうだったかを振り返ったりする機能がある。また、振り返りを通して自己の学びに対する達成感や成就感を味わうことで新たな追究意欲をもったり、メタ認知力を育成したりすることにもつながる。

図14は、教室に常設掲示している振り返りの視点である。社会科だけに限らず他教科でも活用をしているものである。

図15は、子供の振り返りの様子である。子供たちは授業を通して分かったことや生活とつなげて考えたことなどを自分の言葉で表現しているのが分かる。

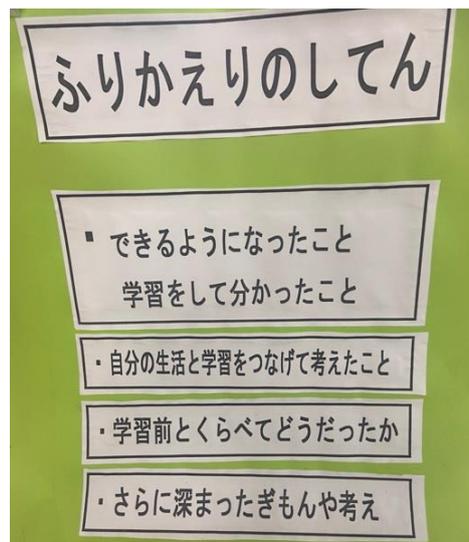


図14 振り返りの視点

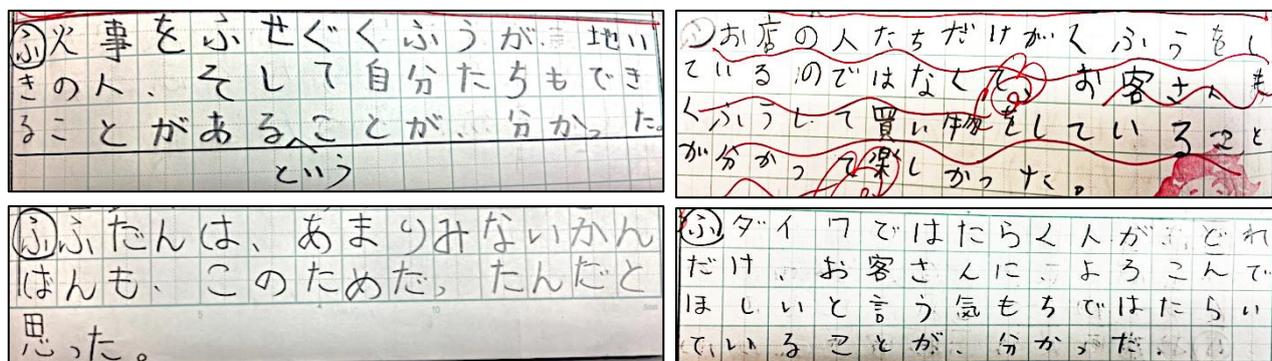


図15 子供の振り返りの様子

キ 一単位時間の学習過程

単元における学習問題を設定し、追究する活動を進めるに当たって教師は、子供が社会生活について理解を深めていくためにより明確に授業をデザインする必要がある。その際に有効な手立ての一つとして、一単位時間の学びの構造を具体化することがある。

図16は、学びの構造を具体化について示したものである。教師は、どのような視点で調べさせ、どのような事実を読み取り、どのような思考方法を使って、概念的な知識を獲得させるのかを具体化することで、学習のねらいにふさわしい資料や板書、発問等の授業像を明確にもつことができる。

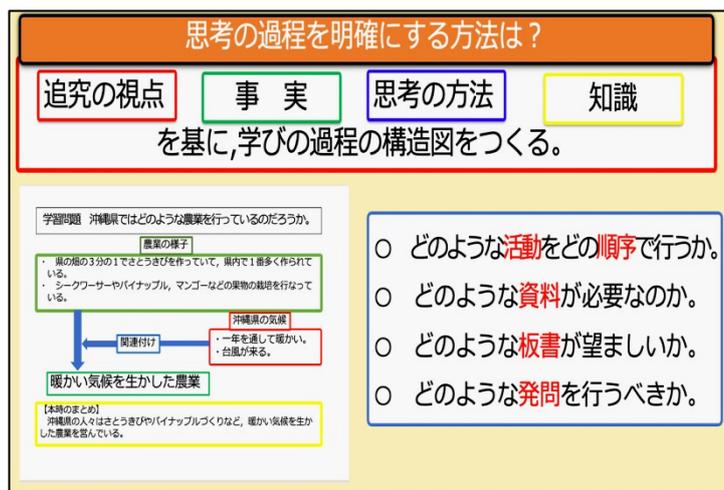


図16 一単位時間の学びの構造の具体化（R3鹿児島県小学校社会科教育研究大会肝属大会資料を参考に作成）

ク 思考の方法

問題解決を図る際には、社会的事象の見方・考え方を働かせながら追究していくことが大切である。そこで、子供たちが思考方法を適切に活用することができるように、工夫したのが図 17 である。子供たちは、これらの考え方をを使って学習問題を設定したり、追究活動を行ったりするほかに、思考ツールなどと合わせて活用したり、振り返りの視点としても活用を図ることができた。

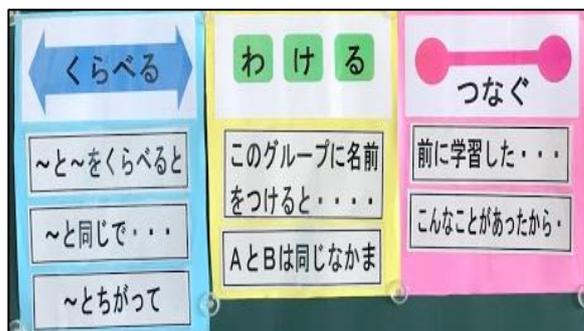


図 17 思考方法の分類

6 成果と課題

(1) 成果

- 社会的事象の見方・考え方を働かせるために思考方法を具体化し活用を図ることで、見通しをもって追究活動に取り組むことができた。
- 思考ツール等を活用し、学習した内容や知識を構造化することで、概念的な知識の形成につなげることができたと同時に、学んだことを表現できる表現力の向上にもつながった。(図 18)
- ICT機器の活用を図ることで、「知識・技能」の定着につなげることができた。(図 19)
- 振り返りを行うことで、自己の学びを総括しようとする態度が見られるようになり、他教科でもめあてに対するまとめや学習問題の答えを自力で文章で表現できる子供が増えた。

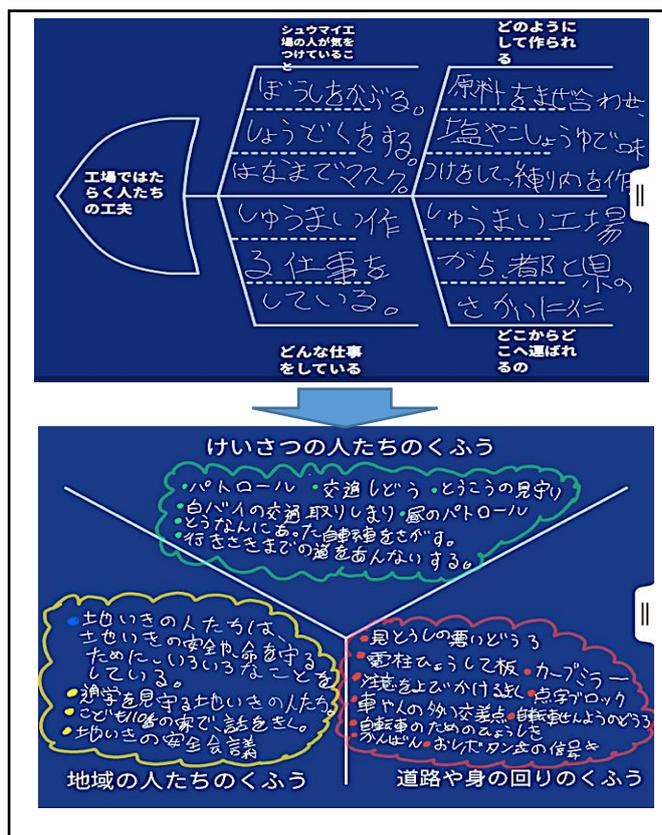


図 18 A児による変化

(2) 課題

- 学習内容を構造化したり、まとめたりするためだけではなく、調べ活動における ICT機器の有効な活用については、更に検討が必要である。
- 学んだことを実践化したり、生活に活かそうとしたりする態度についての評価や見届けについては更に工夫が必要である。

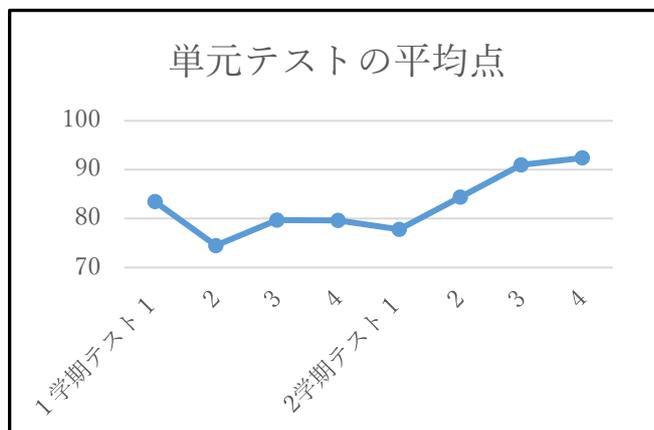


図 19 単元テストの平均点の推移